

厳父であり「教育じじ」



3 安藤由紀子

伊能忠敬は子や孫に対して大変厳しい人であった。

何しろ、あの「鬼平」こと長谷川平蔵に内々で頼みごとができる役に立つ娘婿盛右衛門を、米取引の商損をとがめて、娘のイネ共ども勘当してしまっただ。

【備用】

この時、盛右衛門の叔父で忠敬の九十九里時代の見分である飯高惣兵衛は、忠敬の秋草をいさめて長い堂々たる直書状を書いた。「この手紙は、盛右衛門と骨肉のためばかりでなく、あなたとは莫逆の友であるよしみをもつて書いた」と言い、「商損はよくあること、悪心をいだき酒色博打におぼれたわけでもない。おイネ出産後、出訴しても離縁させるなどは、夫婦の縁あるものに左様のことばなすべきではない。竹しのつもりかもしれぬが、不屈の沙汰である。幼年のうち引き取って(盛右衛門を)教育したのだから、あな

たにも責任がある」と書いていた。

この二人に子があつたかどうか分かっていないので、惣兵衛の手紙には「おイネ出産後……」とあるが、イネは流産してしまつたのかも知れない。二人は九十九里に帰って米屋を開いた。

【備用】

母親がわかつていない三人の子の一人、秀蔵にも長く測量を手伝わせたが、酒を飲み過ぎるとい理由で測量隊員から外してしまつた。その後、秀蔵は婿入りしたが、村間から酒を飲むようになつて婿入り先から離縁された。忠敬は地図の総仕上げに大忙し

であつたが、秀蔵について「突に言語道断の悪者、今人手が無く不自山だが、右のものを追ひ払いました。これで私の病氣もなおり、この上共、長生きできるでしよう」と、大盛右衛門がじくじくして

残つた唯一の男子、長男景敬は佐原本店の当主であつたが、体が弱く、手紙を見ると忠敬はあまり当てにしていなかったようだ。忠敬が九州測量の最中にじくじくしている。

伊能忠敬の家訓書の碑。「第一 仮にも偽をせず孝弟忠信にして正直たるべし」などである。佐原市の旧伊能忠敬記念館で、

心配してました。佐藤一斎(注1)の内弟子は月謝も高いが、佐原の聲らし向きを控えめにしても、これは大切なことゆえで決心ください」と景敬の妻リテと長女妙薫あてに書いている。相当の「教育じじ」ぶりである。

米取引の失敗が原因で婿盛右衛門共ども勘当したこともあつたが、忠敬は長女妙薫を一番頼りにして心を開いた。いま残っている忠敬書簡の多くは彼女あての晩年のものである。

忠敬死後わずか九年の間に、長男景敬の妻リテ、次孫鏡之介、長女妙薫、長孫三治郎、忠海、順にじくじくなり、直系は絶えてしまつた。

た。



【備用】

伊能忠敬のような、強烈な個性の家長がいたら、回りの者は思つてくひまも無かつただろう。忠敬がじくなつて、地図が献上されて、みんなが疲れ切つてしまつたように見える。

忠敬の直系が絶えて、「日本地図が残つた」とでも言えるか。

強烈な個性が地図残す

商損で娘夫婦をも勘当

伊能忠敬のような、強烈な個性の家長がいたら、回りの者は思つてくひまも無かつただろう。忠敬がじくなつて、地図が献上されて、みんなが疲れ切つてしまつたように見える。

(注1) 佐藤一斎 (1772-1859)。江戸中・後期の儒学者。忠敬墓碑銘作者。